



「災害と女性の人権に関するシンポジウム」

# 災害時に必要な女性の視点とは

札幌に住む私たちがすべきこと

東日本大震災から10か月。

綿々と続いていくだろうと思っていた生活が、人との関係が、日々の営みが、災害によって瞬時に奪われてしまうことがあると、私たちは知りました。

そして、被災地で実際に起きたことを通して、改めて

日常に潜んでいる危険や女性の人権を守るための課題が見えてきました。

このシンポジウムが、女性の視点を切り口として

災害時や札幌の防災に必要なことについて

市民の皆さんとともに考える出発点となりますように。

平成24年

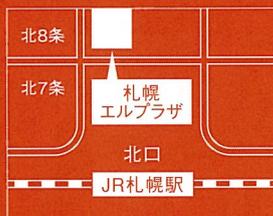
日時

1月13日(金)

午後7時～9時(開場:午後6時30分)

会場

札幌市  
男女共同参画センターホール(3階)  
札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内  
(札幌駅北口地下歩道12番出口横)



- ・JR札幌駅北口より徒歩3分
- ・地下鉄南北線さっぽろ駅より徒歩7分
- ・地下鉄東豊線さっぽろ駅より徒歩10分

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

入場料:無料

参加申込:平成23年12月12日(月)より、電話、E-Mailでの申込。定員300名。先着順。

電話 011-728-1255 E-Mail [jigyyou@danjyo.sl-plaza.jp](mailto:jigyyou@danjyo.sl-plaza.jp)

託児:1歳6か月以上就学前幼児。予約が必要です。希望の方は1月10日(火)までにお申込ください。定員10名まで先着順。

主催:札幌市/道央人権啓発活動ネットワーク協議会

# 災害時に必要な女性の視点とは

—— 札幌に住む私たちがすべきこと

## シンポジスト紹介



シンポジスト

やま ち く み こ

山地久美子さん

関西学院大学災害復興制度研究所研究員  
NPO法人神戸まちづくり研究所副理事長

神戸学院大学客員教授、関西学院大学准教授等歴任。専門は家族社会学、福祉国家論。ハワイ大学社会学科卒業、神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。1995年、阪神・淡路大震災を経験し、まちづくり・災害復興に関わる。2010年より国内外の研究者とともに日本・韓国・台湾・米国において「ジェンダーと災害復興—制度設計と生活再建をめぐる課題に関する国際比較研究」の調査を進めている。東日本大震災においても、被災地での調査を実施し、政府への提言等を行っている。

シンポジスト

に へ い ゆ み こ

二瓶由美子さん

桜の聖母短期大学生生活科学科准教授



東京都出身。1976年、結婚を機に福島に移住。11年間の専業主婦経験を経た後、予備校講師、通信制高校講師として教えながら、福島大学地域政策研究科大学院（行政基礎法専攻）を修了し、桜の聖母短期大学に研究職を得、現在に至る。研究テーマは、子どもの権利・ユニバーサルデザインと人権、ポルノグラフィと性暴力・女性の人権。東日本大震災発災直後からメール等で発信し、福島の女性や子どもの状況を伝えた。共著『大震災のなかで』内橋克人編（岩波新書）。

シンポジウム コーディネーター

やす だ む つ こ

安田睦子さん

有限会社インタラクション研究所代表



小樽商科大学商学部卒業後、札幌市勤務。北大大学院社会人入学、修了後、(社)北海道開発問題研究調査会客員研究員、(株)地域開発研究所取締役社会調査室長を経て、2002年4月から現職。観光、食、防災、男女共同参画をテーマにした社会調査および地域計画、道内自治体まちづくり住民研修、防災研修、行政職員研修のほか、大学との調査研究を行っている。札幌市総合交通計画策定委員会、北海道水資源の保全に関する条例検討懇話会、北海道地域づくりアドバイザー等各種委員を歴任。

## プログラム

18:30 開場

19:00 開演

19:10 基調講演  
「災害時に必要な女性の視点とは」  
山地久美子さん

20:00 シンポジウム  
「札幌に住む私たちがすべきこと」

シンポジスト

山地久美子さん

二瓶由美子さん

札幌市関連部局職員

コーディネーター

安田睦子さん

20:50 質疑応答

21:00 閉会